

景観セミナー（遠賀堀川）開催！

共催：学園&地域交流ネットワーク

「風景にきづく景観をきづく2008」
実行委員会、福岡県は2009年3月1日
（日）午後2時から北九州のオリオンプラザ
の4階生涯学習センター折尾分館で、『私たち
を見てきた遠賀堀川の今、昔そして、これ
から』の内容で市民対象勉強会を開いた。
（北九州地区、第2回目）

人は約200万年前から存在し、旧石器時代から生きてきたという説がある。
今回の会場近くには、山鹿遺跡・黒崎貝塚などがあり、漁業を主たる生業として生き延び、弥生時代には「イネと鉄」が朝鮮半島から伝えられ「農業」と「工業」が早くから成立した地域だった。

そこには、必ず『川』『河口』の存在という地勢的条件が整い、文化興隆の基があった。

『遠賀堀川』もその一つだ。

さて、ここから勉強会の事を記す。

「遠賀堀川と都市形成の変換」

（市原 猛 NPO 法人 COSMOS 倶楽部
理事、九州大学工学博士）

堀川の名称は全国に数多（あまた）あります。目的は、治水・新田開発・運輸等です。ここ折尾地区は運輸上の結节点的役割も果たしていました。

そこで、古（いにしえ）から水路を開発してきたのが、遠賀堀川です。江戸時代は年貢米、そして、近代は石炭輸送に利用されモータリゼーションで鉄道から車に移り、結果、その役目を終えました。



折尾駅周辺
遠賀堀川

ところが、この堀川が「水・陸運、まちづくり、教育、学研都市」へと折尾のまちを変え老若男女が住むまちとなりました。「安心・安全」のまちづくり形成が、大事です。

「遠賀平野の昔話」

（波多野総嗣 日ノ峯神社 禰宜）

社の所在地は、もともと浅川村と称し、異文化交流で魚業・農業定着から地域文化が興隆して現在に至りました。

「遠賀堀川の再生」

（中村恭子 堀川再生の会・五平太会長）

異臭で人々から嫌われた川の清掃を地域住民と共に行い、魚が棲みつくようになりました。

子供たちや地域の人達とともに遠賀堀川の再生を目指します。

『遠賀堀川絵図作成』全国堀川サミット開催』『遠賀堀川名称一本化』を予定。

文化形成の一本道を走り抜きます。

（文責、田中昌信 住宅ジャーナリスト）

『堀川運河近代化産業遺産認定記念看板』設置（北九州土木事務所）

～ 地域活性化に役立つ近代化産業遺産 ～

遠賀川と洞海湾を結ぶ人工河川「堀川」は、舟運を介して北九州・筑豊の産業発展に大きく貢献してきましたが、現在では運河としての役割がなくなり、沿川の住民の方々も堀川を大切にしている気持ちが薄れつつあります。

そうした中で、地域の市民グループ等では、かつての活気ある堀川の再生を目指し、小学校と提携した環境保全活動等を展開してきましたが、こうしたことが評価され、昨年堀川が「地域活性化に役立つ近代化産業遺産」として経済産業大臣の認定を受けました。

堀川を所管する北九州土木では、これを記念して看板を設置しました。

折尾駅前にありますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。